

おかげさま

編集・発行
 おかげさまの会
 足利市本城3-2055
 樹覚寺あけし会館

急ぎ足で冬がやってきました。あちらこちらでどか雪に驚いています。急な寒さに身体が追いつきません、気を付けましょう。

新たな年、一年があっという間に過ぎてゆきます。でも、一年の計は元旦にあり、今年こそはせめてこれくらいは目標として過ごしていこうと心に刻みます。欲張らず、無理せず、今日を大切に、自分を甘やかさず、一日一日を精進させていこうと考えます。

精進 ひまわり びん

たまたま、点いたテレビで料理家の方々が地方に出かけて、土地の食材を使ってお料理を作り、提供して下さった方々に試食していただくという番組をやっており、食事しながら見させていただきました。それぞれの食材を作り、育てていくことへの思い入れと、情熱とこの地域の特質をも護り伝えていきたい、自分の心の故郷でもあることが、映像から篤く伝わってきて、胸があつくなりました。

そうですね、日々何とか明日に繋げたい、そのためにも思考錯誤してがんばろう。家業も家族もあらゆる繋がり合いも大切に伝えたいですね。今それがなかなかむずかしくなっています。

本願寺出版の本で「合掌ができない子どもたち」という本があります。この本の著者は、町内の行事の地蔵盆のおつとめを依頼され、お受けしておつとめを始める時、「合掌」と声をかけて振り向くと、半分以上の子どもたちが、棒立ちして何も



関東では見られないね地蔵盆



勿論、ワンちゃんも、合掌

せずにいるので、「合掌って解らない？ ご飯の時にもしないの？」「知らない、家ですることはない」との返事でした、と。子どもが知らないということは、大人もしていないということになる、と。辛い、寂しい出来事です。

確かに、私も似た経験をしました。ある他宗のご葬儀にお参りした折、参列お参りされている方が、手を合わせることなく軽く会釈されるだけという方が結構いらっしゃることに驚きました。また、もっと多いこと

は、身内の方の葬儀であっても念珠を持っていないこと。真宗の方のお家でもいらっしゃることにびっくりしました。身内の方とお別れする時に、会釈という姿は、考えさせられました。やはり、身近な大人の方がお参りする機会がないのか、仕方を知らずなさっていないということだろうかと思えます。

寺の者として、反省させられました。お伝えが出来ていないということになります。あたり前と思っていたことが、今はあたり前でなくなっているということでしょう。これは一つの例で、身近なところでも、家の中でもいくつか気づくことがあるのではないのでしょうか。護り継いで欲しいものを何とか伝えたい、繋^{つな}いでもらいたいと精一杯つとめていきたいと思えます。

七高僧のお一人の道綽禅師が著わされた「安楽集」のなかのお言葉であり、親鸞聖人が主著『顕浄土真実教行証文類』の化身土巻末に引用された次の言葉があります。

“前に生まれるものは後のものを導き、後に生れるものは前のもののあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないようにしたい”

この言葉は、浄土真宗の教えをいただいた者は、後の人を導き、後の人は前の人に聞き、次の時代に途切れることがないようにしたい、ということなのです。



によりますと、「大谷光淳・本願寺派門主 1月に消息発布へ」。「浄土真宗本願寺派の大谷光淳門主が来年1月16日、本山本願寺の御正忌報恩講満座で、門主就任を内外に披露する伝灯奉告法要に向けた消息を発布するも

ようだ。」。

6月にご門主に就任された大谷光淳さまは、「1977年に伝灯継承した大谷光真前門は翌年の御正忌報恩講満座で「伝灯奉告法要についての消息」を発布し、法要の時期を「昭和55(1980)年度」と明示した。」と前例を踏襲される模様であると憶測している。

「消息が発布された場合、伝灯奉告法要の時期も示されるとみられている。関係者の間では16年秋頃とする見方が有力だ。」とかなり具体的な憶測も飛び交っているもようだ。

ところで、ご門主光淳さまは、本願寺第何代目のご門主でしょうか？ 答えは、宗祖親鸞聖人から数えて、第25代目です。第25代専如ご門主です。

宗務員・寺務員(本願寺派・本願寺の職員)は皆さんご存知のはずですが、歴代宗主(浄土真宗本願寺派門主を宗主という)の法名は？

宗祖親鸞聖人、第2代如信上人、第3代覚如上人、第4代善如上人、第5代綽如上人、

第6代巧如上人、第7代存如上人、第8代蓮如上人、第9代実如上人、第10代証如上人、

第11代顕如上人、第12代准如上人、第13代良如上人、第14代寂如上人、第15代住如上人、

第16代湛如上人、第17代法如上人、第18代文如上人、第19代本如上人、第20代広如上人、

第21代明如上人、第22代鏡如上人、第23代勝如上人、第24代即如前門、第25代専如門主

いかがでしょうか。ちなみに、明石山樹覚寺が寺号を拝受したのは、第20代広如宗主の代のことであります。下附頂きました「五尊様」、御本尊様、御開山様、前住様、聖徳太子様、七高僧様の前住様は第19代本如上人でした。樹覚寺では、報恩講法要のとき、(御本尊様から見て)左余間に所縁の御影として掛けさせて頂いています。

専如門主の伝灯奉告慶讃法要に一緒にお参りしましょう。



あけし あれこれ マユミ (真弓)

今まで気付かなかったのだが、裏の雑木のなかにかわいい小さな赤い花のような、実のようなものをつけた小木を見つけました。何の木かなと住職に聞くと、マユミじゃないかなとのことで、調べてみました。間違いなく、マユミでした。秋からついているのですが、今もそのまま赤くかわいい実がついています。



マユミ (真弓、壇、壇弓) 別名カンサイマユミ ニシキギ科ニシキギ属 (落葉低木)

雌雄異株。葉は対生で細かいのこぎり歯 (鋸歯) があり、葉脈がはっきりしている。1年目の枝は緑色をしている。近縁種のツリバナは新芽が鋭く尖っているが、マユミの芽は丸々としている。老木になると、幹に縦の裂け目が目立つ。花は初夏、新しい梢の根本近くにつく。薄い緑色で四弁の小花。果実は枝にぶら下がるようにしてつき、小さく角ばった四裂の姿。秋の果実の色は品種により白、薄紅、濃紅と異なるが、どれも熟すと果皮が4つに割れ、鮮烈な赤い種子が4つ現れる。市販のマユミは雌木1本で果実がなる。



材質が強い上によくしなる為、古来より弓の材料として知られ、名前の由来になった。この木で作られた弓のことや、単なる弓の美称も真弓という。和紙の材料にもなったが、楮^{こうぞ}にとって代わられた。現在では印鑑や櫛^{くし}の材料になっている。